第 48 回静岡哲学会大会・総会

会員各位

2026 年 10 月吉日

早秋の候，会員の皆様におかれましては，お変わりなく益々御研鑽のことと拝察申し上げます。

さて，静岡哲学会第 48 回大会を下記の要領で開催致します。なにとぞ御参会下さいますよう御案内申し上げます。

日時：2026 年 11 月 3 日　12：50~16：30
会場：静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ 904 会議室
〒422-8019　静岡県駿河区東静岡二丁目 3 番 1 号

第 48 回大会プログラム

開場　12:50
シンポジウム　13:00~16:10

「睡眠時の心の働きを哲学する」

『睡眠学の百科事典』（日本睡眠学会）によれば、ヒトの睡眠は「可逆的で一過性の生理的な意識喪失」として行動学的に定義されてきたが、睡眠の認められる生物の範囲が拡張されたことで、睡眠の定義も変化しており、認識や意識、記憶といった「心の働き」の有無との連関で睡眠に一義的な規定を与えることには、様々な実証的・理論的問題が付きまとうことが指摘される。たしかに、「睡眠とは何か」を論じるにあたり、心の働きに依拠することは、睡眠学のみならず、西洋哲学の歴史の中でも散見されるひとつの説明様式である。しかしながら、近代という時代に限定しても、心の働きはかなり多義的に論じられてきた背景があり、他方でまた、特にデカルトの「コギト」以降－フロイトを経て「無意識」の領域が議論の俎上に上げられるようになったとはいえ－－西洋哲学という文脈では往々にして、心の働きの一側面しか捉えられてこなかったように思われる。このような問題意識を念頭に、本シンポジウムでは、認識や意識、記憶といった心の働きがもつ様々な側面に光を当て、睡眠をめぐる学際的議論において人文学、とりわけ哲学に定位したアプローチがいかなる寄与を果たしうるのか模索する。

本シンポジウムでは、金沢星稜大学プロジェクト研究所のプロジェクト課題（「生物にとっての睡眠と意識の関係－自然科学的アプローチと人文学的アプローチに基づく学際的な観点から－」、2025-2027 年度）において、人文学的アプローチのメンバーとして参画している 3 名が研究成果を報告します。

■発表１　寺嶋雅彦（金沢星稜大学）
「近世ヨーロッパにおける睡眠・意識・記憶」
■発表２　繁田歩（工学院大学）
「私はいま夢を見ているのか？ ――認識論における夢知識の行方」
■発表３・司会　尾崎賛美（静岡大学）
「誰が夢を見るのか？――睡眠を手掛かりにした意識の諸相の研究」
・発表各 30 分
・発表者間での意見交換（14：30~15：00）
・フロアとの意見交換、質疑応答（15:10~16:10）

総会（16:20~16:30）

※問い合わせ先　静岡哲学会事務局　Email:shizuoka.philosophical.society@gmail.com
※懇親会は予定しておりません。
※同封の振込用紙にて、学会費の納入をお願い致します。**今年度の学会費は 2000 円です（学生会員は 1000 円です）。学会費の未納額は封筒の宛名シールに記載されています。**

※『文化と哲学』は電子ジャーナル化されました。電子ジャーナル化に伴い、冊子での雑誌送付を終了しています。『文化と哲学』に掲載される論文などの記事につきましては静岡大学学術リポジトリにて公開をいたしております。
『文化と哲学』を閲覧する方法は下記のとおりです。
まず**「静岡大学学術リポジトリ」**（https://shizuoka.repo.nii.ac.jp/）にアクセスしてください。（**「静岡大学学術リポジトリ」**というキーワードでインターネット検索もできます）
「静岡大学学術リポジトリ」のトップページから、
「01. 人文社会科学部・人文社会科学研究科」 →「文化と哲学（1981-）」の順にお進みください。
そのトップに最新号**「2026 41-42」**があります。その下にバックナンバーも掲載されています。

※静岡哲学会ホームページ（静岡大学人文社会科学部社会学科人間学コース哲学・倫理学分野サイト内）
http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/ningen/research/shizutetsu.html